

福し体験で感じたこと

豊川小・4 野本 琉輝

ぼくは八月十一日に夏休み親子福し体験こうぎに行きました。福し村には高れい者やしようがいのある方がいました。耳の聞こえない人や、体が不自由など、いろんな人が生活しているそうです。ここではいろいろな体験をしました。高れい者ぎじ体験や車いす体験、ボッチャ、知的しょうがい者体験、手話にもチャレンジしました。その中で特に心に残った体験は、高れい者ぎじ体験です。ゴーグルをつけて目がぼやけたりし野をせまくしたり、イヤホンをつけて耳を聞こえにくくしたり、ひざやひじに器具をつけたりしました。そうするとあつという間に体が動きにくくなりました。

まずは、そのじょうたいで新聞を読んでみました。いつもだったらすらすら読めるのに、目の前が黄っぽくなって見えるはんいがせまいので、とても読みづらかったです。次にだん差を上って下りました。足が曲げづらかったので、転びそうになりました。ふだんは軽く登れるのにこんな二、三だんでも上り下りがこんなにも大変なんだなあと思いました。だからお年よりがつえを使っている意味が分かりました。最後に買い物体験をしました。花を買うとき、見えにくくて小せにがどれが何円かわからなくてこまりました。しはらおうとしたら、小せに落ちてしまいました。すぐに小せにを拾おうとしても身体が思う様に動かなくて、しせつの人が拾ってくれました。ちよつとしたことでもとても助かりました。年をとると、

ふだんの生活の中でこんなにもこまることがあるんだとわかりました。ぼくは今、まだ十才ですが、いつかこうなるんだなあと思いました。だから、今ぼくが手伝えることをして、お年よりを助けたいです。

もう一つに残っている体験は手話です。手話は耳が聞こえなかったり、言葉が話せなかったりする人が手や指を使って会話することです。ぼくはそこで初めて手話を知りました。日ごろのあいさつだと「おはよう」は、顔の横にグーを作って、そのグーを下に下げてまくらから起き上がる様子からできています。「こんにちは」は、手をおでこの前で作り、時計の十二時のはりを表しています。「こんばんは」は、顔の前に両手でパーを作り、そのパワーを顔の前で重ねます。朝、昼、夜のあいさつは、グー、チョキ、パーになってるので、覚えやすいなあと思いました。あいさつは人とのコミュニケーションでとても大切なので、覚えることができると良い機会になったと思います。今までテレビなどで手話で会話をしている人を見て、とてもむずかしそうだなあと思っていました。このようなあいさつならかん単にできるので、周りの人にも教えてあげたいです。

他にも自分の名前の手話を教えてもらいました。ぼくの名字は「野本」なので手話の「あいうえお表」を見てやることにしたら、一本指でカタカナの「ノ」を書いた後に両手で本を読む仕草をしてくれたので、野本の「本」は本を読むをすればいいんだということが分かりました。それから耳の聞こえない方といういろいろな手話でお話をしました。好きな食べ物や、好きなスポーツ、好きな勉強などを聞かれたので、ジェスチャーで伝えようと思いました。そしたらそれ

を見て相手の人が手話の答え方を教えてくれました。ぼくの好きな食べ物チョコレートは手話で表すと、板チョコを両手でわるような動きで面白かったです。

「好きな勉強は何ですか。」

と聞かれたときには、ジュエスチャーでもうまく答えられなくてこまっつてしまいました。すると、手話ができて耳も聞こえる人が通やくしてくれました。もつと手話を知ってコミュニケーションを取りたいなあと思いました。ぼくの好きなスポーツを聞かれた時には、「野球」と答えたくて、バットを持ってボールを打つ真似をしたら、すぐに野球と分かってくれました。しつ問をされて、手話で答えて通じた時には、とてもうれしかったです。もつともつといろいろな手話をおぼえたいです。

ぼくは今、学校でエスディーズについて学んでいます。エスディーズの十七の目標の一つに「全ての人に健康と福祉を」というものがあります。今まで福祉というものがあまりよくわからなかったけれど、今回の福祉体験でお年よりもしよう害のある人にも少しでも安心してくらせるように大切なことだとわかりました。世の中にはいろんな人がいます。今まではあまり気にしなかったけれど、これからはそうしたいような人にも少しでもぼくが役に立てることを見つけていきたいです。